



総研大ニューズレター

第 81 号 2015. 2 発行

●目次

【今月のトピックス】

平成 27 年賀詞交歓会

広報室

日本留学フェア・総研大国際連携活動

in マレーシア・シンガポール

学務課

第 11 回実践的大学院教育研究会

学融合推進センター

文化科学研究科 学術交流フォーラム 2014

文化科学研究科

生命共生体進化学専攻 オープンキャンパス

先導科学研究科

【イベント情報】

主なイベント予定

2 月 1 日

サイエンスカフェ 「進化がヒトに残したもの」

2 月 23 日-27 日

総合教育科目「生命科学と社会 I・II」

【今月のトピックス】

● 平成 27 年賀詞交歓会



平成 27 年 1 月 5 日（月）に、総合研究大学院大学平成 27 年 賀詞交歓会が開催されました。初めに 2 階講堂にて、岡田学長から年頭の挨拶があり、現在の総研大を取り巻く状況や将来に向けた総研大改革についてお話がありました。その後、1 階食堂に場所を移し、長谷川理事、永山理事からも挨拶があり、参加者は終始、和やかな雰囲気の中、旧年を振り返りつつ新しい年に向けて、相互に歓談を行いました。

【広報室】

● 日本留学フェア・総研大国際連携活動 in マレーシア・シンガポール

平成 26 年 11 月 28 日から 12 月 3 日までの 4 泊 6 日の日程で、田村理事（評価・国際連携担当）をはじめとし、三原智教授（素粒子原子核専攻）、伊藤憲二准教授（生命共生体進化学専攻）、武藤彩助教（遺伝学専攻）、他事務職員 3 名の計 7 名がマレーシア・シンガポールを訪問し、国際教育展に参加する等、現地での広報活動・国際交流活動を行いました。

11 月 29、30 日の 2 日間、マレーシアのクアラルンプールコンベンションセンターで開催された国際教育展に参加しました。このイベントは、マレーシアの留学希望者及び進学指導者等を対象に、マレーシア内外、世界各国の教育関係者が情報提供を行うもので、日本からは本学を含む 42 の教育機関が参加し、日本パピリオンで各自自校の PR を行いました。これまでの日本留学フェアとは異なり、今回の国際教育展には日本以外の教育機関も多く参加しており、来場者に対して日本留学の魅力そして本学の魅力をいかに伝えるかが、難しくもあり、また醍醐味でもありました。英語圏の国のパピリオンが目をはく建造物や試食会などの魅力的な催しで注目を集め、そちらに来場者が集まる傾向があったものの、手伝いに来てくれた修了生の LEO KWEE WAH さん（2012 年加速器科学専攻修了・現 Malaysian Nuclear Agency 研究者）の活躍もあり、両日あわせて 25 名以上の学生と個別面談をし、本学の魅力や入試制度、経済支援について紹介することができました。全体では、プミプトラ政策の影響や、日本が漢字圏ということもあってか、マレーシア人の中でも中華系の学生が日本留学に高い関心をもっているような印象を受けました。また、生命系の分野の人気の高かったタイに比べ、マレーシアは工学系の人気の高かったように思われます。

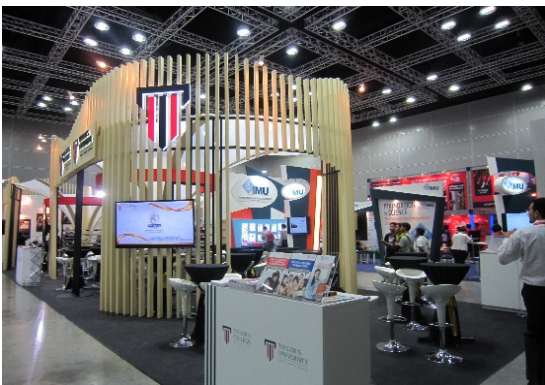
また、マレーシア訪問の機会を利用して、マレーシア在住の共同研究者を招いた懇談会を開催しました。懇談会は、LEO さんのアレンジにより、高エネルギー加速器科学研究科と共同研究を行っている Malaysian Nuclear Agency からゲストを迎え、これまでの交流実績や今後の交流発展に関する有意義な意見交換を行いました。



マレーシア国際教育展にて



マレーシア国際教育展にて



人気の高かったパピリオン



マレーシアの懇談会にて

12月1日、2日は隣国シンガポールへ移動、シンガポール在住の修了生が所属する5つの研究機関を訪ね、ミーティングを行いました。シンガポールは非常に国際的で、人材、設備あらゆる面で国際化したレベルの高い研究環境が得られることもあり、様々な国籍の本学修了生がシンガポールで活躍しています。2日間という短い滞在期間ではありましたが、修了生の皆さんの協力のおかげで、1. アジアメディカルセンター、2. The Singapore Centre on Environmental Life Sciences and Engineering (SCELSE)、3. Machanobiology Institute (MBI)、4. Singapore Institute for Neurotechnology (SINAPSE)、5. Institute of Molecular and Cell Biology (IMCB) の5つの機関を訪問することができました。

1. Asia Medical Center (AMC, アジアメディカルセンター) 訪問

アジアメディカルセンターは、日本の高度な科学・技術力を世界の医療分野に還元し、世界の人々の生活の質の向上に貢献することを理念として発足した組織で、高度な「もの作り技術」「基礎研究力」及び「先端医療技術」を、成長著しいアジア医療市場と結びつける為のプラットフォーム機能を果たしています。修了生の尾崎美和子さん（1992年遺伝学専攻修了）は現在AMCの代表を勤めていらっしゃる、今回の訪問ではAMCに関する概要説明の他、教育、リサーチグラントの申請や審査、評価方法の違い等様々な側面について、シンガポールと日本の比較的な観点からご説明くださいました。田村理事からは、「尾崎さんのように、専門知識と広い視野、高いバランス感覚を活かして、組織のリーダーとして国際的に活躍している修了生がいることは、在学生にとっても大変よい励みや目標となる。今後もますます活躍してほしい」という旨が伝えられました。

2. The Singapore Centre on Environmental Life Sciences and Engineering (SCELSE)

The Singapore Centre on Environmental Life Sciences and Engineering (SCELSE)は、シンガポール国立研究財団、シンガポール教育省、南洋理工大学 (NTU) 並びにシンガポール国立大学 (NUS) の共同出資により、分野横断的な研究の拠点として設立された組織です。現在はシンガポール国立大学との協力の下、南洋理工大学が中心となって管理運営しています。修了生のKim Hielimさん（2008年生命共生体進化学専攻修了）はSCELSEの上級研究員として、メタオミクス・システム生物学部門のDirectorであるProf. Schusterの下、専門の進化遺伝学の研究に取り組んでいます。今回の訪問では、Kimさんの紹介によりProf. Schusterの他、南洋理工大学生物科学専攻の長であるProf. Preiserと面談しました。面談では、まず田村理事から本学の概要説明を行った後、遺伝学専攻の武藤助教から遺伝学研究所及びご自身の研究の紹介、生命共生体進化学専攻の伊藤准教授から「科学と社会」プログラムに関する紹介が続きました。その後、Prof. SchusterからSCELSEの概要に関する説明があり、ディスカッションでは外国人学生比率や学生への経済支援、また研究費申請・評価システム等について情報交換を行った後、Kimさんの案内によりSCELSEの施設を見学しました。SCELSEは非常にシステムチックかつ合理的で、例えば、使用済薬品を処理する部門が専門にあり、個々人は使用済薬品を処理する必要がないようです。Kimさんによると、「研究者としては非常に便利で有り難いことであるが、学生の教育として考えた時には使用済薬品の処理方法も知っていた方がよいので、自分は学生時代に総研大で学べて良かった」ということでした。



AMCにて



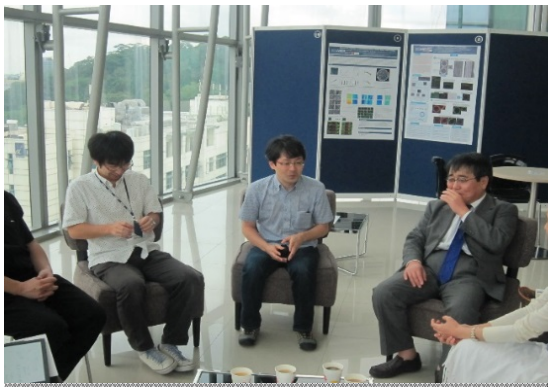
SCELSEにて

3. Mechanobiology Institute (MBI)

Mechanobiology Institute (MBI)は、シンガポール国立研究財団とシンガポール教育省の共同出資により、シンガポールとアカデミアの双方に寄与するメカノバイオロジー分野の新たな研究拠点として2009年に設立されました。修了生の原佑介さん(2013年基礎生物学専攻修了)は、MBIのポストドク研究員として、PIの遠山准教授の下、細胞・組織形成ダイナミクスの研究に取り組んでいます。遠山先生、原さんとの面談では、田村理事から修了生ネットワーク事業を含む本学の国際連携活動について紹介があった後、シンガポールの研究事情、日本人学生のシンガポールでの就職事情、大学の入試事情について情報交換を行いました。原さんからは「自身が就職活動をする際に、情報源は自分個人か指導教員のネットワークに頼るしかなかったので、苦勞をした覚えがある。大学として在學生・修了生へのキャリア支援を強化していただけると有り難い」というご意見をいただきました。その後の原さんの案内による施設見学では、オープン・ラボ形式の風通しのよい環境で研究を行っている様子が感じられました。

4. Singapore Institute for Neurotechnology (SINAPSE)

Singapore Institute for Neurotechnology (SINAPSE)は、シンガポール国立大学で神経科学、技術開発及び医療・商業応用分野の先端的な研究に関わっている科学者、臨床医、エンジニア、学生で構成されている組織です。修了生のMashiur Rahmanさん(2005年構造分子科学専攻修了)は、シンガポール国立大学とシンガポール科学技術庁の双方に所属しており、Mashiurさんの紹介により、SINAPSEを訪問し、Deputy DirectorのDr. YenとHead of Research TranslationのDr. Luuとの面談が実現しました。面談では、田村理事からの本学紹介、武藤助教からの遺伝研紹介、伊藤准教授からの「科学と社会」プログラムに関する説明がありました。その後、Dr. YenからSINAPSEに関する説明があり、SINAPSEでは様々な専門分野の多様な職種の人々が協力し、医療や知財など産業・社会に役立つ研究・技術開発を行っている旨説明がありました。その後のDr. LuuとMashiurさんの案内によるラボ見学では、センサーで物体の固さを認識し、適度な握力でその物体をつかむことの出来る腕型ロボットや、病院で患者を移動させるポーターロボットなどを実際に見せてもらいました。大学や研究所で得られた研究成果を社会に還元させるため、多くの知や技術が集結された環境は非常に印象的でした。



MBIにて



SINAPSEにて

5. Institute of Molecular and Cell Biology (IMCB)

The Institute of Molecular and Cell Biology (IMCB)は、1987年にシンガポールにおける生物医学分野の研究開発能力を高めることを目的としてシンガポール国立大学で発足し、その後2004年にシンガポール科学技術庁の傘下の、独立した研究機関となりました。今回の訪問では、修了生のMashiurさん(前述)の紹介により、Executive DirectorのProf. Hongの他、PIのDr. Claridge-Chang, Dr. Jesuthasan, Dr. Surana等5名の研究者と面談を行いました。面談では、相互に自機関と研究内容の紹介を行い、Prof. Hongは本学のユニークな組織体制と幅広い研究分野に関心を持たれたようで、修了生の進路や学生の経済支援などについて情報交換しました。その後のMashiurさんの案内による施設見学では、Dr. Claridge-Changラボのショウジョウバエの研究設備、Dr. Jesuthasanのゼブラフィッシュの研究設備を見学しました。特にDr. Jesuthasan

のラボでは、光などの環境刺激がゼブラフィッシュにどのように影響を与えるかを研究しており、「環境刺激により、魚のゼブラフィッシュでも鬱状態になる」という興味深い話を伺いました。また、Dr. Jesuthasan の研究テーマであるゼブラフィッシュは、今回同行した武藤助教の研究テーマでもあるので、今後の共同研究の可能性も高まったようでした。

また、各研究機関訪問の他、シンガポール在住修了生と共同研究者を招いて懇談会を開催しました。国際色豊かでレベルの高い研究環境が得られるシンガポールでは、現在4カ国5名の修了生が活躍しています。修了生の中には、研究関係で互いに顔見知りだったが、同じ総研大出身であるということを知らなかった方もいらっしゃり、思いがけぬ共通点発見の機会となったようです。研究機関同士が地理的に近く、交流が盛んな国ということもあってか、懇談会を通じ参加者の交流がすぐに深まり、自主的に第二回在シンガポール総研大修了生の集いを企画しているほどでした。シンガポールの総研大修了生ネットワークは、総研大海外ローカル修了生ネットワークの先駆的なモデルになることが期待できそうです。また、懇談会には、共同研究でシンガポールに来訪中であつた野本忠司准教授（日本文学研究専攻）も参加され、その後引き続き翌日のSINAPSE訪問にも同行されました。

4日間という短い滞在期間でしたが、修了生のみなさんのご協力のおかげで、大変充実した4日間となりました。今年度実施した4カ国6都市での留学フェア（国際教育展）、6カ国での国際連携活動も今回で最後です。台湾、ミャンマー、タイ、ベトナム、マレーシア、シンガポールで行った活動が、本学の海外学術交流ネットワークの発展に寄与することを願っています。



IMCBにて



シンガポールの懇談会にて

【学務課】

● 第11回実践的大学院教育研究会



大学院修了後のキャリアを考える、「博士のその後を考える～世界の事情、日本の事情～」が開催されました。大学のアカデミックポストは限られており、総研大でも在学生の終了後のポスト、また修了生のその後の進路を發展させていく施策が求められています。当日は、既存のアカデミックキャリアの枠に限定されないキャリアと、そのマッチング支援が話されました。

株式会社アカリク長井さんの講演では、企業における博士人材の活用について、語られました。学位授与機構の野上機構長の講演で紹介されたドイツで行われている研究者の起業支援に関しては、多くの参加者から質問が上がりました。また、社会に博士人材の登用をお願いする生物科学学会連合の事例は遺伝学専攻の小林先生から貴重な学協会の取り組みとして紹介していただきました。本学からは、海外、特にアジアのシンガポールで活躍する修了生の事例を奥本から報告させていただきました。

本研究会では、大学院生一人一人の意識改革から、国の大学院政策の改革まで幅広いテーマが語られました。大学院まで進み、研究プロジェクトを実施できる博士号取得者は、国が求める専門性の高いグローバル人材像に合致します。一方、既存のアカデミックキャリアという限定したキャリアの中では、全ての博士号取得者を賄えないのが現状です。今後はこれまでのキャリア支援の枠にとらわれない、広い視点からのキャリア支援が必要だと参加者の中からの意見として上がりました。

本研究会で出た意見に関しては今後の学融合推進センターの活動にも活用していきたいと思えます。

【学融合推進センター 助教 奥本素子】

● 文化科学研究科 学術交流フォーラム 2014

平成 25 年 12 月 20 日（土）と 21 日（日）、国立民族学博物館において、文化科学研究科の学生・教員によって主催される学術交流フォーラム 2014 が開催されました。今回のテーマは「文化をカガクする？」です。

今回は学生企画委員による発案をもとにプログラム内容を構成しました。その結果、口頭発表・ポスター発表・パネルディスカッション・ワークショップ・研究公演の各セッションが準備されました。同時にこれらのセッションの企画責任者として、1 名ないし 2 名の学生企画委員が就く形式をとりました。これによってフォーラムの運営は、近年採られていた学生企画委員長・フォーラム担当教員が中心となって関係者全員でフォーラム全体を管理運営する全体管理方式から、個別企画の拡充によって複数の魅力ある企画を準備する個別企画形式へと変更されました。この結果、各企画責任者の研究内容や問題意識が最大限に発揮されることになり、従来までにはみられなかった各企画責任者の学術的実践的背景を確認することのできる企画が構想されました。特に後述する料理体験ワークショップ、音・音楽ワークショップ、研究公演の 3 つのセッションは、企画担当者の研究内容、開催基盤である国立民族学博物館の博物館としての機能と役割、そして企画立案に能動的に取り組んだからこそ生じた各委員の熱意によって初めて成立した企画です。

同時に文化科学研究科内の学術成果の共有と発信を目指すため、学融合推進センターにて採択されている学融合共同研究事業の代表者・共同研究者の方にパネルディスカッションを依頼しました。「共同研究から見つめる文科のいまとこれから」とテーマ化したパネルディスカッションでは、文化科学研究科で行われている研究動向や共同研究のあり方について共有することを狙いとしました。さらにこれに加え、従来の口頭発表とポスター発表を行うことで、大学院生・教員による学術成果の共有と発信を目指しました。

そしてテーマである「文化をカガクする？」は、これらの各企画の構想を支えています。人文科学による学術研究の意義と役割について、さまざまな場面において問われるなか、本テーマの「文化をカガクする？」とは、文化科学研究科の学術研究「カガク」のいまを、主催者・参加者とともに考え共有することで、人文科学の学術研究が担う「文化」の未来について発信する意図が込められています。特に今回は、人文科学の研究で扱う「しりょう」（資料・史料・試料）の役割・意味に焦点を当てながら、学術研究の内容について、多くの人びとと共有する方法やさま

さまざまな人々に発信する手段を共通課題としました。これによって「文化をカガクする？」という主題には、研究方法や発信方法の異なる全セッションを「カガク」として繋ぎ合わせる役割も与えられています。

フォーラム初日は13時より開会式を行い、続いて口頭発表とポスター発表が行われました。口頭発表では、総研大生と修了生による口頭発表が2題、他研究科の学生も加わったポスター発表が23題にものぼり盛況を博しました。その後、パネルディスカッションでは、学融合共同研究事業「観相資料の学際的研究」「在ハワイの日本歴史・文化資料をめぐる国際共同研究—ハワイにおける日本文化の受容」のパネルディスカッションが行われ、共同研究の構想背景や実際の経過、その後の成果について教員・学生・外部研究者よりご報告をいただきました。



2日目は10時から2種類のワークショップを実施しました。1つめは料理体験ワークショップ「総研大クッキングスクール：パレスチナシャーム地方のムジャッダラを食す」です。比較文化学専攻の西山文愛委員が企画責任を務めた本ワークショップは、国立民族学博物館の石毛直道名誉教授が、民博4階生活科学実験室において教職員向けのクッキングスクールを開催していたことを知り、自身の料理に対する学術的関心と創作活動の多様な実践的可能性について考えていたことから着想に至りました。当時のクッキングスクールに思いを馳せ、総研大のさまざまな分野の方々にも食の文化を体験して共有できるスタイルを目指した結果、西山委員は食に用いられる具材や調味料を「しりょう」ととらえることで、味覚・嗅覚・触覚・視覚・聴覚の五感を用いて加工して味わう体験を前面に出した、食にまつわる「文化」を学び共有するワークショップを企画立案しました。当日は国立民族学博物館の菅瀬晶子助教にレクチャーをしていただき、参加者全員で該当地域の家庭料理であるムジャッダラを調理しながら、料理を通して伝わる文化的背景や地理的条件について学びました。これによって、五感を通して「しりょう」を把握する体験を一同で共有することができました。



2つめのワークショップは音・音楽ワークショップ「寄り添いの音・音楽—伝える・祝う・送る

一」です。企画責任は、国際日本研究専攻の光平有希委員が務めました。音楽療法思想の研究に取り組む光平委員が、民博の収蔵品を用いたうえで、音・音楽の多面的な側面について参加者と共有することを目指しました。構想にあたっては、光平委員が関心を寄せていた「伝える・祝う・送る」場に注目することで、「しりょう」としての音・音楽がさまざまに変容することに注目しました。そこでまず国立民族学博物館外来研究員の伊藤悟氏にひょうたん笛の演奏を依頼し、音・音楽に対する人びとの感性を主題として扱いました。続いてガムランを用いた音楽普及活動を行うチャンドラ・バスカラに、ガムランの演奏と舞踊の実演を依頼し、本学メディア社会文化専攻の仁科エミ教授にはガムラン音に関するレクチャーをお願いすることで、ガムランの演奏と舞踊がもたらす共同体内での役割や音を感じることによって生じる脳反応について扱いました。そして最後は、主催者参加者が一同になり、民博に収蔵されているガムランを用いた楽器の実体験を行いました。こうして「しりょう」のあり方、「しりょう」とのかかわり方、「しりょう」を通して人びととつながる可能性について、多くの方々と共有することができました。



そして13時からは研究公演「大元神楽研究公演」が行われました。本セッションは国立民族学博物館との共催となりました。企画責任は日本歴史研究専攻の鈴木昂太委員です。鈴木委員は中国山地において、民俗学（民俗芸能研究）の立場から神楽の研究を行っています。今回は鈴木委員の研究調査活動の一環でお世話になっていた、島根県江津市で活動する市山神友会との信頼関係（ラポール）により大元神楽の公演が実現しました。研究公演のセッションでは、はじめに市山神友会の皆様により「太鼓口」「御座」「鐘馗」「五龍王」の4種の演目が公演されました。そして慶應義塾大学の鈴木正崇教授、市山神友会長の本山徳幸氏に鈴木委員を交え、民俗芸能研究の成果と今後の課題について意見交換するパネルディスカッション「大元神楽のイマー無形文化財制度と民俗芸能伝承活動」が行われました。奇しくも国立民族学博物館の展示室には、大元神楽の天蓋と仮面が展示されており、無形民俗文化財の保存と伝承、博物館の機能と役割について大いに考えさせられるテーマとなりました。また一般の方も多数来場され、278名にもものぼる方々と、大元神楽の講演とパネルディスカッションの内容とを共有することができました。



最後になりますが、本フォーラムは多くの皆様のご理解ご協力により実現することができました。この場を借りて、ご協力いただきました全ての方に心からお礼申し上げます。

【地域文化化学専攻 東城義則】

● 生命共生体進化学専攻 オープンキャンパス

生命共生体進化学専攻は、1月9日（金）及び10日（土）の2日間にわたり葉山キャンパスにおいて、オープンキャンパスを開催いたしました。本研究科では毎年2回オープンキャンパスを1泊2日で開催し、本専攻の内容について一人一人丁寧にしっかりと説明を行っています。今回は6名の参加がありました。

2日目に行うラボ見学では、アゲハ蝶の視覚の研究、イノシシの骨から探る当時の人々の暮らしについての研究、縄文土器から発見された種についての研究など、資料を実際に見ながら説明を行いました。

本研究科の在学生からは「生命共生体進化学専攻のメリットは『分子進化生態学』『理論集団生物学』の生物科学要素の強い研究から、『科学と社会』のような文系的要素の強い研究まで幅広い分野の勉強ができること」という熱いメッセージがあり、各参加者は説明に真剣な面持ちで聞き入っていました。

参加者からは「色々な研究分野の話が聞けてとても楽しかった」「研究者になる楽しさと難しさを同時に教えてもらい、将来設計の参考になった」等の感想が聞かれ、大変充実したオープンキャンパスとなりました。

<生命共生体進化学専攻オープンキャンパス・スケジュール>

実施期間 2015年1月9日（金）～1月10日（土）
実施場所 葉山キャンパス共通棟1階セミナー室 103, 104

1月9日（金）

13:30-14:00	受付
14:00-14:15	総研大と全学事業の紹介（平田光司 学長補佐）
14:15-14:35	生命共生体進化学専攻の概要説明（佐々木顕 専攻長）
14:35-14:55	カリキュラム・入試に関する説明（印南秀樹）
14:55-15:00	休憩
15:00-17:25	研究内容紹介 → 5分野；各分野25分間程度
15:00-15:25	統合人類学分野（長谷川真理子、杳掛展之、本郷一美、那須浩郎）
15:25-16:00	進化生物学分野（颯田葉子、田辺秀之、五條堀淳、大田竜也、寺井洋平）
16:00-16:25	行動生物学分野（蟻川謙太郎、木下充代、フィンレイ・スチュアート）
16:25-16:35	休憩
16:35-17:00	理論生物学分野（佐々木 顕、大槻久、印南秀樹、宅野将平）
17:00-17:25	科学と社会分野（平田光司、伊藤憲二、飯田香穂里、標葉隆馬）
17:25-18:00	休憩
18:00-19:00	ポスター説明（ポスター会場：食堂にて）
19:00-21:00	ポスター説明 & 情報交換会（食堂にて）

1月10日（土）

8:30- 9:30 朝食・ポスター説明・個別相談（ポスター会場：食堂にて）

9:30-11:35 ラボ見学ツアー
9:30-10:00 行動 (蟻川・木下・スチュアート)
10:00-10:20 人類 I (本郷・那須)
10:20-10:30 人類 II (長谷川・沓掛)
10:30-10:50 進化 I (大田・寺井)
10:50-11:00 進化 II (田辺)
11:00-11:20 進化 III (颯田・五條堀)
11:20-11:35 理論 (佐々木・大槻・印南・宅野)
11:35- 昼食・アンケート回答



【総務課】

【各種募集】 現在公募中の情報

応募期間	イベント名称・提出先	参考URL
平成27年2月15日(日)	学融合推進センター 萌芽的研究会開催支援	http://cpis.soken.ac.jp/project/research/houga/index.html
平成27年2月28日(土)	学融合推進センター 出版補助事業 研究論文掲載費等助成	http://cpis.soken.ac.jp/project/research/ronbunhojo/index.html

【イベント情報】

●総研大の行事

2月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
1日(土)	14:00-16:00	サイエンスカフェ 「進化がヒトに残したもの」 理科ハウス(神奈川県逗子市)	http://www.soken.ac.jp/event/20150201/
16日(月)	13:00-17:30	学融合研究事業・戦略的共同研究・公開セミナー 「観相(人相見)資料の学際的研究」 国文学研究資料館2階大会議室	http://www.soken.ac.jp/event/20150216/
23日(月)-27日(金)		総合教育科目「生命科学と社会I・II」 総研大葉山キャンパス、生理学研究所	http://www.soken.ac.jp/event/20150223_1ss/
26日(木)	13:30-17:20	学融合推進センター・戦略的共同研究・学内公開 セミナー「温度感受システムの進化生理学」 総合研究大学院大学 葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/20150226/

3月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
2日(月)-6日(金)		遺伝学専攻 体験入学 国立遺伝学研究所	http://www.nig.ac.jp/jimu/soken/html/nyugaku/taiken/taiken.html
7日(土)	13:00-16:30	高エネルギー加速器科学研究科大学院説明会 日本教育会館 9F 第五会議室	http://kek.soken.ac.jp//sokendai/admission/setsumeikai/201503setsumeikai/
7日(土)	13:30-17:20	学融合推進センター・育成型共同研究・学内公開 セミナー「科学技術コミュニケーションの実践知 理解に基づくディスカッション型教育メソッドの 開発」 国際交流館	http://www.soken.ac.jp/event/20150307-2/
22日(土)	10:00-17:00	第18回自然科学研究機構シンポジウム 「生き物たちの驚きの能力に迫る」 学術総合センター(一橋講堂及び中会議室2、 3、4)	http://www.nins.jp/
27日(金)	10:00	生命科学研究所 基礎生物学専攻 大学院説明会・オープンキャンパス 基礎生物学研究所	http://www.nibb.ac.jp/graduate/index.html

●基盤機関の行事

2月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
12月1日(月)~3月31日(火)	10:00-16:30	通常展示「書物で見る 日本古典文学史」 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2014/bungakushi.html
21日(水)~3月中旬頃	10:00-16:30	特設コーナー「観相から観る日本史」 国文学研究資料館	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2014/bungakushi.html
1日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 『「エイジング・イン・プレイス」をめぐる議論と実践』 国立民族学博物館 本館展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/370
4日(水)	13:00-14:30	カレッジシアター「地球探求紀行」 『マレーシアの自然と生きる人びと』 あべのハルカス近鉄本店 ウイング館9階「SPACE9」	http://www.minpaku.ac.jp/museum/showcase/activity/collegeheater
6日(金)	10:00-17:40	統計科学専攻 学生研究発表会 統計数理研究所・セミナー室1	
7日(土)	13:30-15:30	第23回「東のムラ・西のムラ」 国立歴史民俗博物館 歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/movie/index.html
7日(土)	13:30-16:20	国際フォーラム「紛争地の文化遺産と博物館」 国立民族学博物館 第4セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/corp/20150207
8日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 『モノから組織を考える—展示を見る一つの視点』 国立民族学博物館 本館展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/371
14日(土)	13:00-15:00	第374回「絵具と彩色技法」 国立歴史民俗博物館 歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
15日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 『インドネシア・バリ島の聖獣バロンと魔女ランダのいる暮らし—宗教儀礼から観光ショーまで』 国立民族学博物館 本館展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/372
18日(水)	13:00-14:30	カレッジシアター「地球探求紀行」 『聖地に生きる—パレスチナとイスラエル』 あべのハルカス近鉄本店 ウイング館9階「SPACE9」	http://www.minpaku.ac.jp/museum/showcase/activity/collegeheater
20日(金)	13:30-18:00	研究フォーラム「持続可能なIPMに向けて—博物館環境データの分析手法を考える—」 国立民族学博物館 第5セミナー室	
21日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「遊牧の起源—バングラデシュの豚と人のかかわり」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/441
21日(土)~22日(日)	13:30-18:00	国際シンポジウム「アジアにおける新しい博物館・博物館学の展望」 国立民族学博物館 第4セミナー室	

22日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう『音楽展示の楽しみ方』 国立民族学博物館 本館展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
2月24日(火)-4月5日(日)		和宮ゆかりの雛かざり 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/special/index.html#room3
25日(水)	13:00-14:30	カレッジシアター「地球探求紀行」 『ネパールの今と昔—1982年の映像から』 あべのハルカス近鉄本店 ウイング館9階「SPACE9」	http://www.minpaku.ac.jp/museum/showcase/activity/collegeheater
28日(土)	11:30-12:00	展示場ミニレクチャー みんなくワールドシネマ「もうひとりの息子」関連 国立民族学博物館 本館展示場ナビ広場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/lecture_movies1502
28日(土)	13:30-15:30	第191回「くらしの中に息づく植物」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html
28日(土)	13:30-16:30	みんなく映画会／ワールドシネマ「もうひとりの息子」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/movies1502

3月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
1日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
8日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
10日(火)-5月6日(水・振)		大ニセモノ 博覧会—贋造と模倣の文化史— 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html
10日(火)-9月6日(日)		山の流行服 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/special/index.html
14日(土)	13:00-15:00	第375回「古墳の出土品と社会の変化」 国立歴史民俗博物館 歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
20日(金)	18:30-20:45	公開講演会「いやし旅のウラ？表？—現代アジアツーリズム考」 オーバルホール（大阪市北区）	
21日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「ミシンと家庭—100年前のグローバル商品」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/442
22日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
28日(土)	13:30-15:30	第192回「くらしのなかの信仰と植物」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html
29日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon

【受賞等】

○複合科学研究科 情報学専攻 計 宇生 教授
「Distinguished Member of the 2015 IEEE INFOCOM technical Program Committee」 受賞

○複合科学研究科 情報学専攻 Gene Cheung 准教授
IEEE Communications Society Multimedia Communications Technical Committee
「B2014 distinguished service award」 受賞

○複合科学研究科 情報学専攻 Sun Jingtao 学生
Depend2014 「Best Paper Award」 受賞

○生命科学研究科 遺伝学専攻 太田 朋子 名誉教授
スウェーデン王立科学アカデミー 「クラフォード賞」 受賞

【編集後記】



皆様も周りで来年度に向けた動きが活発になってきて、忙しい日々をお過ごしかと思います。新年度というのは、いつでもワクワクするものですね。より良い年度にするために、皆さん一緒に頑張りましょう！

さて、前号の編集後記で、葉山では富士山が綺麗に見える季節になってきました、と書きました。最近では綺麗に見える日が多く、とても癒やされるのですが、時々、不思議な富士山が見ることがあります。今号では海と陸の境が曖昧な富士山をご覧ください。写真では少し伝わりづらいくらいでしょうか。

広報室 Y. H

広報室では、総研大の研究成果をメディアを通じて広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報室までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報は是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2015年2月4日

編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報室

TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2014 SOKENDAI